



方メ - トルが仮置きされているが、東電は更に厚さ 2.5cm の鉄製のタンクに入れ、厚さ 1m のコンクリートで囲まれた装置に保管する準備を進めているが、その後の処理方法は未だ見つかってはいない。

このアバル社製の浄化装置は 60 億の巨費を投じたが、スラッジの処理には大規模な遠隔操作技術が必要なことが判り、さらに故障が多く、稼働率が 70 %程度で、9 月には事実上「休止」となった。

現在は 8 月に追加導入された東芝製の浄化装置「サリ - 」が活動している。

このサリ - は「凝縮沈殿」方式ではなく、鉱物「ゼオライト」等の固形物に放射性物質を吸着させる方法で、この吸着した鉱物を廃棄物として特殊容器に入れ、容器共に廃棄する方法で、容器の線量は 4mSv/h であるから、スラッジより遙かに低い、その反面、量は膨大になるからこれまた事後処理が困難になる。

従って汚染水処理はこれからの問題であり、膨大な量の汚染水の処理をどうするのか？そして、また流出事故があったようです。

12 月 4 日、東電発表「福島第一原発に貯まる高濃度放射能汚染水を処理する施設から、汚染水が 45 トンが漏れているのが見つかった。」と発表した。

処理後の汚染水ですが、基準値を大幅に上回る濃度の放射性物質を含み、総量は最大 220 トンと見積もれており一部は海に流出したとみられる。

漏れた水のセシウム濃度は 1 リットルあたり 4 万 5000 ベクレル (Bq) 原子炉等規制法が定める海水での基準値の約 300 倍、ストロンチウムは処理できないから、セシウムの量から推測すると濃度基準値の約 100 万倍ある。

